

コンテンツツーリズムにおける行政の役割

～アニメ作品の事例を中心として～

氏名：友野雅樹（経済学部 3 年）

指導教員：長田進先生

[要旨]

コンテンツツーリズムはテレビドラマやアニメの舞台となった土地を作品のファンが訪れる観光行動のことである。これは「物語を旅する」というコンセプトのもと話題となったものである。その中でも近年ではアニメにおける事例が多くみられ、2016年9月16日にはアニメツーリズム協会が設立されるほどの盛り上がりを見せている。

コンテンツツーリズムに対する地域の取り組みを見ていくと行政が深く関わっている印象が見受けられる。利益を追求するのであれば、行政以外の一般の団体が働きかける方が効率的であると言える。そこで本稿ではコンテンツツーリズムにおける行政の役割について事例比較を行い、仮説を立てた。その仮説をもとにして、飛騨市へのインタビューを行った結果を踏まえ、議論を進めた。

結果として、現状の飛騨市には「観光地としての意識」が低いという点と、「コンテンツを受け入れる土台がない」という2つの問題があることが判明した。これらの点から映画『君の名は。』における取り組みをした際に、コンテンツから100%の恩恵を受け取れなかったとされている。

これらの問題への対策として、行政がコンテンツツーリズムに対して積極的

に動きコンテンツを「町を盛り上げる起爆剤」とすること、「コンテンツの恩恵を受けられる土台作り」を啓発すること、という2つの役割を果たしていることが判明した。